

パス支援体制の構築

専従看護師を配置して
円滑なパス運用に繋げる

愛媛県立中央病院クリニカルパス委員会
専従看護師 竹田 直弘



2013年 5月 新病院に移転
2014年12月 グランドオープン

電子カルテ リブレース
富士通 EGMAIN-GX Ver.6

施設概要

病床数： 827 床
(一般 824床, 感染症 3床)
診療科： 32 診療科
外来患者数： 約 1700 人/日
入院患者数： 約 660 人/日
平均在院日数： 12.4 日
病床利用率： 80.9 %



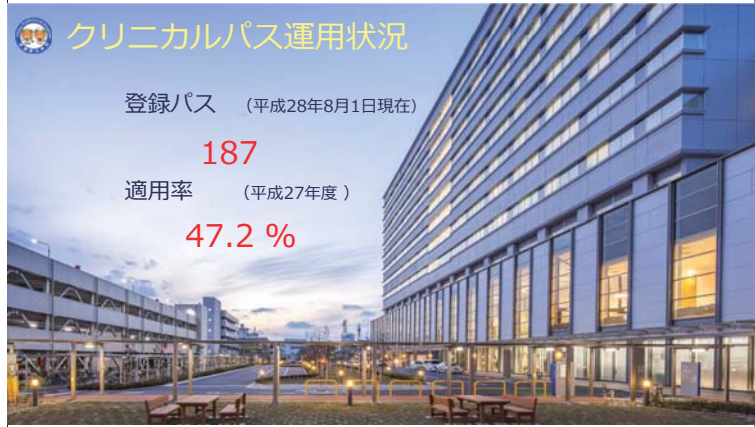
クリニカルパス運用状況

登録パス (平成28年8月1日現在)

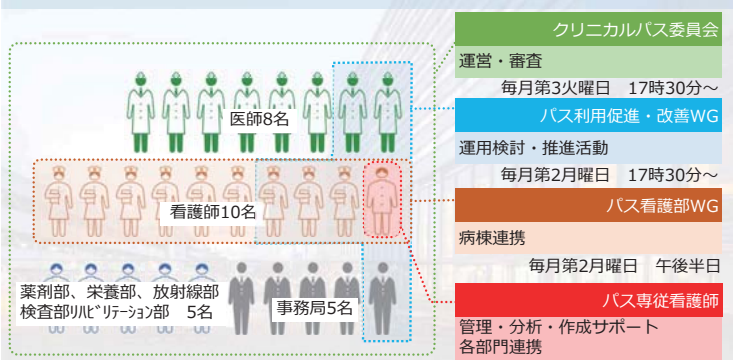
187

適用率 (平成27年度)

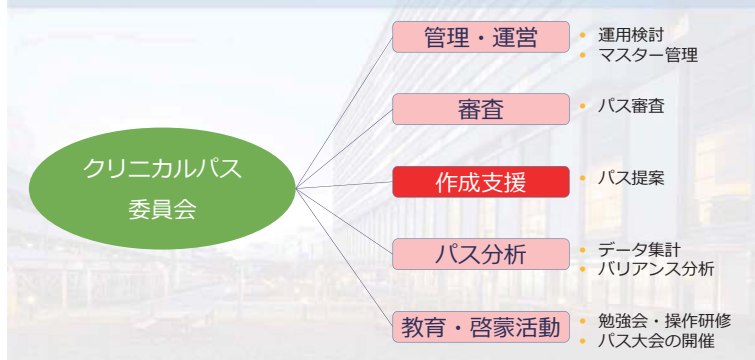
47.2 %



クリニカルパス委員会の構成 (平成28年度)



クリニカルパス委員会の役割



作成支援体制の取り組み

1. **作成支援するための合同作成会を開催**
バス作成フローを見直し
2. **作業工程の全面的なサポート**
業務負担の軽減を図る
3. **バス作成のスケジュール管理**
バス作成から運用開始までの期間の長期化を防ぐ

バス作成における問題点

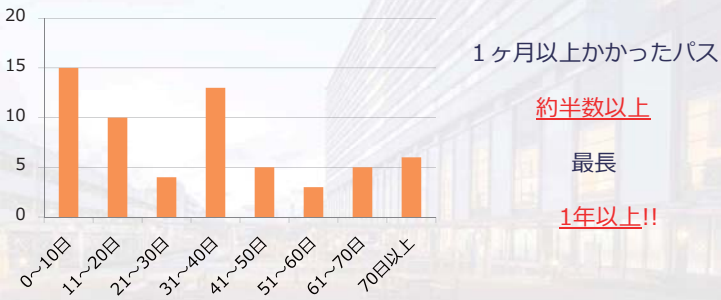
問題点

バスの運用開始までの期間が長期化している。

要因

- ✓ 作成段階での支援が出来てない
- ✓ バス作成の作業負担が大きい
- ✓ 病棟バス係の経験不足

審査日から運用開始までの期間調査結果



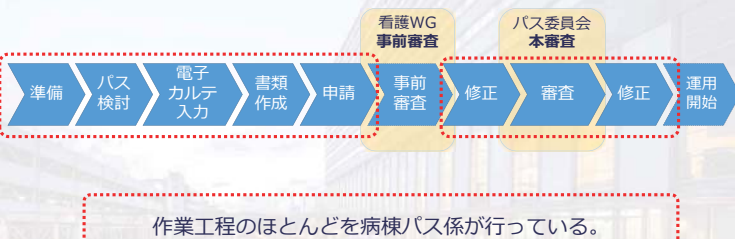
バス作成フロー（昨年度）の問題点

各部署が何を作っているか分からない



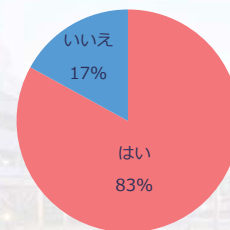
作成状況を把握していないため、支援ができていない

バス作成の作業工程（昨年度）

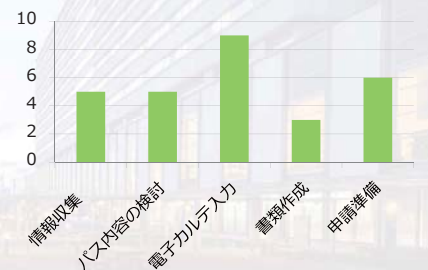


業務負担が大きい

バス作成は負担だと感じますか？



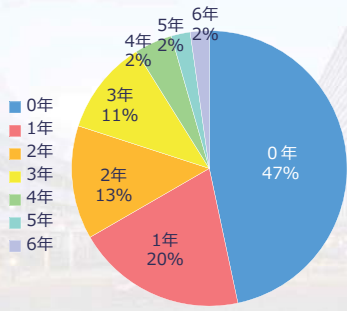
バス作成の工程でどこを負担だと思えますか？



平成27年度病棟バス係アンケート調査より

病棟パス係の経験不足

パス係経験年数（平成27年度）

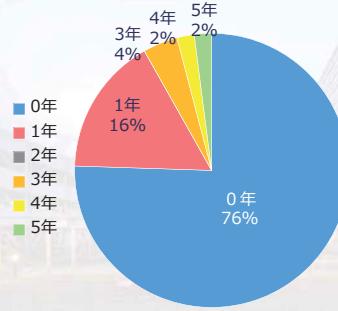


約半数が初めて

各病棟には、毎年継続して担当を続けてもらうように依頼をしている。

病棟パス係の人材育成不足

パス係経験年数（平成28年度）



今年度はさらに深刻化

看護師経験年数は平均10.5年

パス活動の理想

パス委員会からアプローチしなくても

各診療科や病棟が、積極的にパス作成・分析・改訂ができる。

現状での実現は難しい

短期目標

- パス作成が長期化しない
- パス係の業務負担の軽減ができる
- 申請しやすい体制づくり

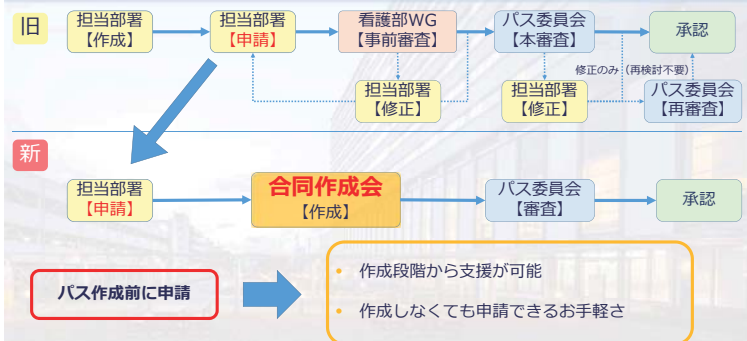
作成支援体制の取り組み

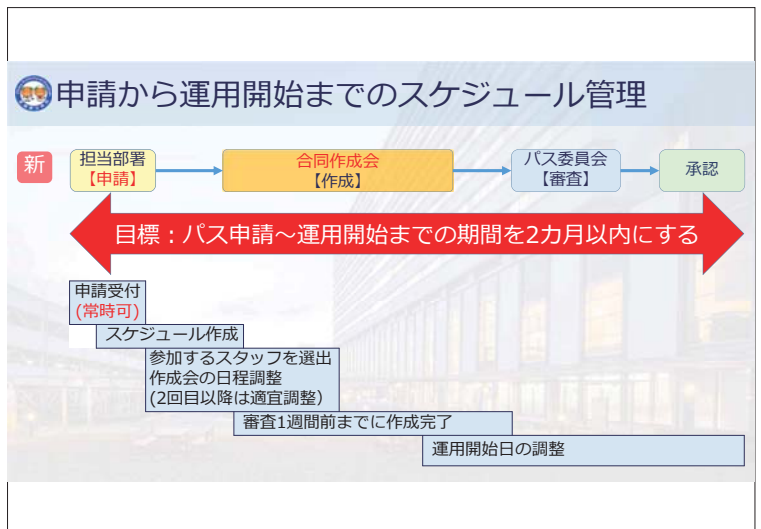
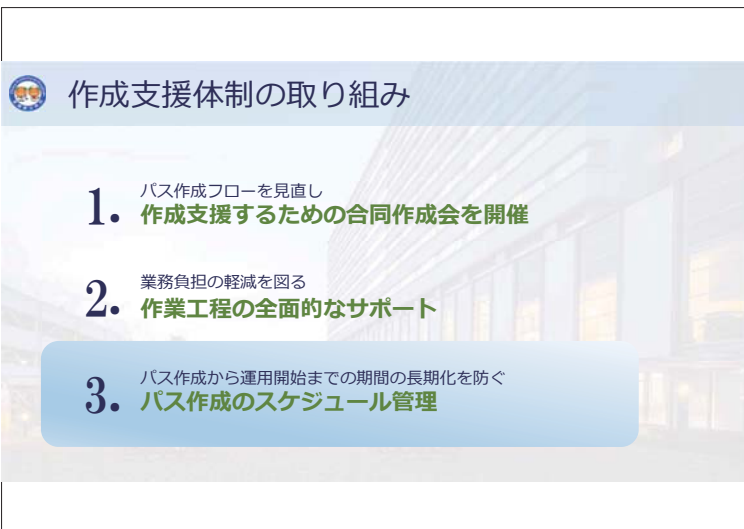
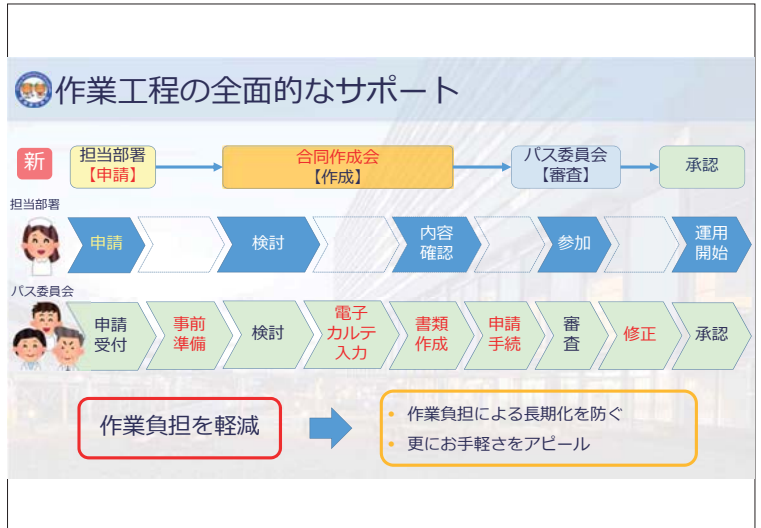
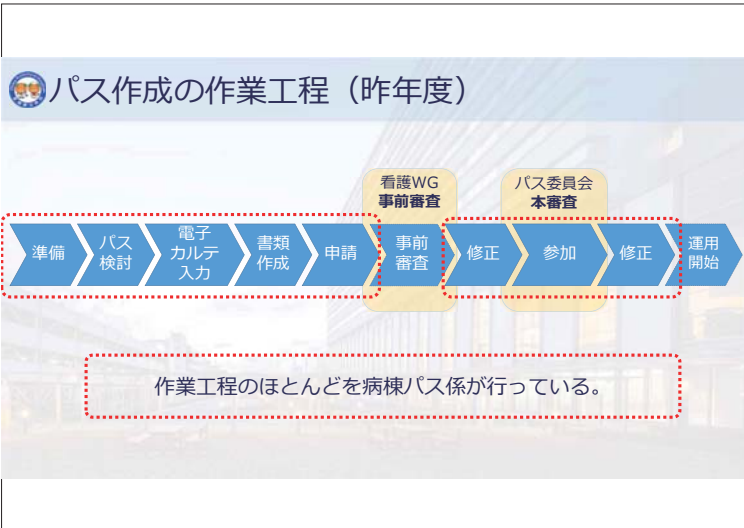
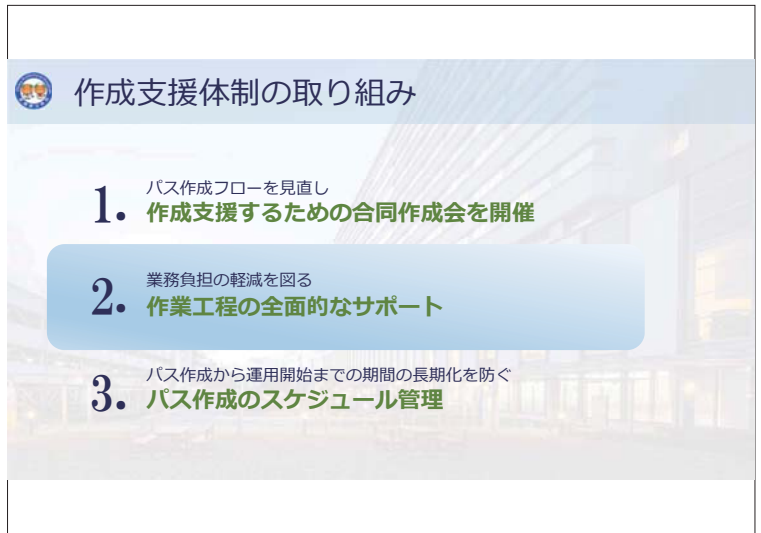
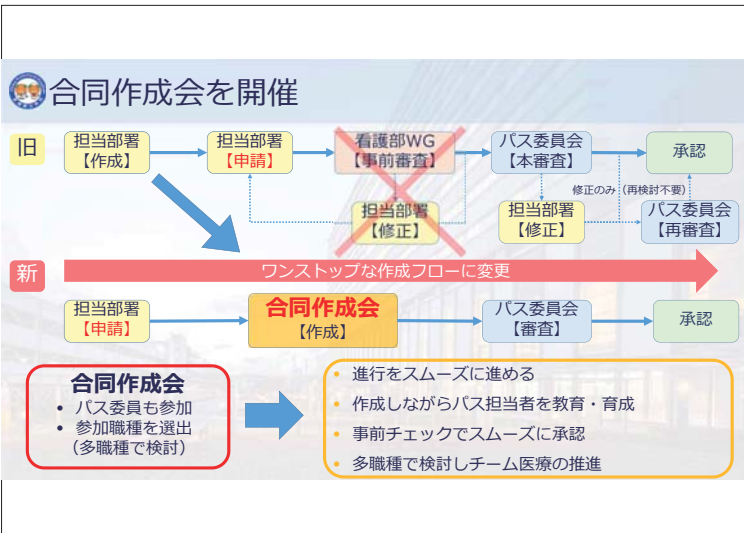
1. パス作成フローを見直し
合同作成会の開催
2. 業務負担の軽減を図る
作業工程の全面的なサポート
3. パス作成から運用開始までの期間の長期化を防ぐ
パス作成のスケジュール管理

作成支援体制の取り組み

1. パス作成フローを見直し
合同作成会の開催
2. 業務負担の軽減を図る
作業工程の全面的なサポート
3. パス作成から運用開始までの期間の長期化を防ぐ
パス作成のスケジュール管理

パス作成フローの見直し





専従看護師が中心となって作成支援

バス合同作成会の開催

多職種との連携

バス作成入力作業

バス作成スケジュール管理

バスに関する窓口
常時対応

バス管理



バス専従看護師

今後の課題

バス作成支援
円滑にバス運用が開始できる

- 作成フローを見直し
- 作業工程の全面的なサポート
- 申請から運用開始までのスケジュール管理



バス分析支援
PDCAサイクルを回す

- 定期的なバリエーション分析
- データ提供と合同バス検討会の実施
- 他院との比較

今後の課題

バス委員全員がバス活動に参加

委員会内で小グループに分け役割を分担して活動する。

クリニカルバス検討委員会

運用グループ

- マニュアルの改訂
- バスラウンド



教育グループ

- バス講習会の企画運営
- バス大会の企画運営



分析グループ

- バス評価の監査
- バス分析

